

旭川市報道依頼

各報道機関 様

発表日	平成29年 8月 14日
発信課	社会教育部 科学館
担当者	向井 正幸
連絡先	電 話 0166-31-3186
	FAX 0166-31-3310
	E-mail m_mukai@city.asahikawa.lg.jp

分 類	イベント・行事 募集 契約・入札 会議・説明会 その他 (該当する分類を囲むこと。)
日 程	8月 26日 ~ 9月 21日
発表項目 (行事名)	実物大ケナガマンモスゾウ（復元模型）の展示
概 要 (趣旨・日時・ 場所・内容等を 記入すること。)	<p>旭川市大雪クリスタルホールでは、第71回地学団体研究会総会（旭川）が開催されるのにあわせ実物大のケナガマンモスゾウの復元模型を展示します。この模型は学会開催中の1日目（8月25日）に運び込まれ組み立てた後、2日目（8月26日）と3日目（8月27日）に公開します。場所は大雪クリスタルホールの大会議室前の入口付近。大きさは、幅3m程、奥行き5.5m程、高さ3.5m程にもなるマンモスゾウです。学会終了後は、旭川市科学館エントランスホールへ移動し、そこで29日（火）から23日間、展示をします。</p> <p>旭川では初公開のケナガマンモスゾウの復元模型です。学会2日目（8月26日）に開催される学術シンポジウム（9:30~12:00）のテーマ「加速する北海道化石古生物系博物館の活動」の中の「北海道のナウマンゾウとマンモスゾウ」（添田雄二さん：北海道博物館 学芸員、畠 誠さん：北広島市教育委員会 学芸員）の研究発表にあわせ展示をします。</p> <p>講演では、約4万5千年前に北広島市周辺でケナガマンモスゾウとナウマンゾウが最適な環境や植生でなくても生息できた可能性を示すことを発表します。</p>
添付資料	<p>① ・ 無</p> <p>(有・無のいずれかを囲むこと。)</p> <p>※ 広報用チラシとプレス用資料。2枚の配付を希望します。</p>
報道（取材）に当たってのお願い	
備 考	

旭川に

実物大“ケナガマンモスゾウ”がやって来る！

<展示場所>

日時：平成29年8月26日(土)

～27日(日)9:00～17:00

場所：大雪クリスタルホール

(神楽3-7)大会議室前

日時：8月29日(火)～9月21日(木)

9:30～17:00

場所：旭川市科学館(宮前1-3)

エントランスホール

その他：観覧はいずれの場所も無料です。



旭川市大雪クリスタルホールでは、第71回地学団体研究会総会（旭川）が開催されるのにあわせ実物大のケナガマンモスゾウの復元模型を展示します。この模型は学会開催中の1日目（8月25日）に運び込まれ組み立てた後、2日目（8月26日）と3日目（8月27日）に公開します。場所は大雪クリスタルホールの大会議室前の入口付近。大きさは、幅3m程、奥行き5.5m程、高さ3.5m程にもなるマンモスゾウです。学会終了後は、旭川市科学館エントランスホールへ移動し、そこで29日（火）から23日間、展示をします。

旭川では初公開のケナガマンモスゾウの復元模型です。学会2日目（8月26日）に開催される学術シンポジウム（9:30～12:00）のテーマ「加速する北海道化石古生物系博物館の活動」の中の「北海道のナウマンゾウとマンモスゾウ」（添田雄二さん：北海道博物館 学芸員，畠 誠さん：北広島市教育委員会 学芸員）の研究発表にあわせ展示をします。講演では、約4万5千年前に北広島市周辺でケナガマンモスゾウとナウマンゾウが最適な環境や植生でなくても生息できた可能性を示すことを発表します。

是非、この研究の成果と復元模型の展示をシンポジウムとともに大勢の市民の方々にご覧になっていただきたいと存じます。

<問合せ先>

旭川市教育委員会 社会教育部 科学館 学芸員 向井正幸

〒078-8391 旭川市宮前1条3丁目3番32号

Phone:0166-31-3186

プレス用資料

■実物大ケナガマンモスゾウとは・・・

制作期間：2016年4月中旬～7月上旬

制作者：北広島市エコミュージアムセンター，北海道博物館
北広島市内全小学校（8校）：7校は4年生、1校は6年生
北広島市内中学校（2校）：1年生
33名（小学生30名、中学生2名、高校生1名）

道都大学：8名（協力依頼）

制作人数：772名（延べ962名）

復元模型：4万5千年前のケナガマンモスゾウの親子（北広島産）

<はじめに>

この事業は、2016年1月に北海道博物館からの協力依頼を受け、「平成28年度北海道博物館特別展開連・北広島市エコミュージアムセンター共催地域連携事業ー北広島マンモス大復活プロジェクト！」として実施したものです。

その内容は、北広島市から産出したケナガマンモスゾウを実物大で制作し、北海道博物館で7月9日から9月25日まで開催される特別展「ジオパークへ行こう！ー恐竜，アンモナイト，火山，地球の不思議を探る旅ー」に出展するというものでした。

北広島市は、日本で唯一古型のマンモスゾウとケナガマンモスゾウの化石が発見されているところです。このケナガマンモスゾウは、これまで古い時代のゾウ化石と考えられていましたが、2011年、北海道博物館をはじめ複数の研究機関が調査した結果、ケナガマンモスゾウであることが判明しました。2014年には、北海道博物館と北広島市エコミュージアムセンターが共同研究を行った結果、約4万5千年前に北広島市周辺でケナガマンモスゾウとナウマンゾウが共存していた可能性も明らかになりました。特にケナガマンモスゾウの化石に関しては、日本で最も新しい情報を持っていることから、これを広く子どもたちに伝える手段の一つとしてケナガマンモスゾウの父親（体長約5m×体高3m：45歳）と子（体長約2m×体高1.2m：3歳）の2体を制作することとしました。

制作に当たっては、北広島市エコミュージアムセンター学芸員の作業サポートとして道都大学生に協力を依頼し、さらに郷土をより理解できる機会と考え、市内の小学生から高校生までを対象に公募したプロジェクトチームと、また、より多くの子どもたちが制作に関わることができるよう、市内の小・中学校を巡回するかたちで制作を進めることとし、希望校に訪問して実施しました。

父親マンモスの制作は、プロジェクトチームの子どもたちが担当し、全10回制作活動を行い、このうち初回は北海道博物館で北広島のケナガマンモスゾウの勉強会を行い、2回目からはエコミュージアムセンターで制作を続けました。

子マンモスの制作は、小・中学校を訪問し実施しました。小学校は市内全小学校8校が参加し、各1回ずつリレーしながら作り上げました。中学校は2校が参加し、各1回ずつの制作で父親及び子どもに使用する体毛を制作しました。

全ての参加校では、1時間目に北海道博物館学芸員が北広島のケナガマンモスゾウについての話をし、2時間目に北広島市エコミュージアムセンター学芸員が、その日の作業内容を説明し制作に取り掛りました。

親・子ケナガマンモスゾウの制作に参加した子どもたちの人数は、プロジェクトチームの子どもたち41名、小学校495名、中学校236名で、合計772名が関わり、延べ962名で作り上げました。

子どもたちが関わる制作期間は、4月からの約3か月間でしたが、最後の仕上げは、北広島市エコミュージアムセンターと北海道博物館の各学芸員及び職員が行い、7月5日までに完成しました。完成した親子マンモスは、7月6日にトレーラーに載せて制作に関わった各学校等を回り披露した後、北海道博物館に運び入れました。

エコミュージアムセンター学芸員は、これまで北広島産の大型哺乳動物化石の骨格標本等を10体以上子どもたちと共に作り上げてきましたが、今回の実物大ケナガマンモスゾウの体は想像以上に大きく、削り作業や塗装、体毛の制作・貼り付けなど大変困難でした。また、運搬することを考えて組み立て式にしたことから、作業がとても難しく苦労しました。完成まで紆余曲折ありましたが、子どもたちにとっては郷土の理解につながる体験として深く記憶に残ったと思います。

今後も体験を取り入れた企画を通して子どもたちに郷土を知る機会を作っていきたいと考えています。

（以上、北広島マンモス大復活プロジェクト！より抜粋）